

上郡町のアシトコバチ科 (Hymenoptera: Chalcididae)

大貝 秀雄¹⁾

アシトコバチ科は小型ながらも体は頑健で、頭部や小楯板に大きな突起や凹みがあったり、科名の由来になっている巨大な後腿節のおもしろさなど、形態的にも興味深いグループである。

一般に微小な種が多いコバチ上科の中にあって、アシトコバチ科には比較的大型の種が多く含まれているためか、日本産の種については古くからよく分類研究がなされている。一方、現状での各種の分布状況を見ると、全北区・旧北区・東洋区などといった広域分布種の多いことがめだち、将来的には分類の見なおしが必要となる可能性もはらんでいるように思われる。

日本産のアシトコバチ科については Habu (1962) によるレビューで概要を知ることができるが、その後あらたに記録された属・種も多く、日本昆虫目録 (2020) では 4 亜科 13 属 57 種が報告されている (実体の疑わしい 19 世紀の記録 3 種を含む)。そのうち本州からの記録が確認できるものは 36 種あり、国内既知種の約三分の二にあたる。これを都道府県別の昆虫相調査報告と照らし合わせると、神奈川県 (26 種)、東京都本土部 (24 種) などはよく解明されていると思われるが、ほかは多くて広島県の 16 種などであり、アシトコバチの多くが広域分布種である点を考慮すると、各地域の分布調査は充分には行われていないところが多いと言わざるをえない。兵庫県においても、筆者の知る限りでは、大貝 (2018) による 6 種以外にアシトコバチ科のまとまった記録は存在しないようである。

筆者は兵庫県上郡町における自身の調査により 4 亜科 7 属 16 種のアシトコバチ科を記録することができた。そのうちの多くは兵庫県では初めて記録される種になるのではないかとと思われる。また、あわせて日本産アシトコバチ科の亜科・属までの検索表として、Narendran (1989) の検索表から抽出作成した拙訳を参考のため掲載しておきたい。

アシトコバチ亜科 Chalcidinae

日本産既知の 4 属 27 種のうち上郡町からは 1 属 5 種を記録した。

1. ハエヤドリアシトコバチ *Brachymeria minuta* (Linnaeus, 1767)

八保丙; 1 ♀, 2. X. 2023 (図 1)。

本種以下の 3 種は小楯板末端が多少とも両側方に突出する。本種は腹部第二背板後半に明瞭な点刻がなく横皺状の微細印刻をもつ、黒色味の強い種である。

アシトコバチ科は外骨格が非常に固く、微針を刺すことも容易ではない。刺す位置を間違えると、図 1 のように頭部や前胸などが脱落することもある。中胸前端から腹端までの長さ 4.7mm。

2. キアシトコバチ *Brachymeria lasus* (Walker, 1841)

八保丙; 1 ♀, 19. IX. 2023. 上郡 鈴の宮公園; 1 ♀, 21. X. 2022, 4 ♀, 28. X. 2022, 5 ♀, 19. XI. 2022, 2 ♀, 30. I. 2024. 高田台; 1 ♀, 23. VIII. 2003, 1 ♀, 26. VIII. 2003, 1 ♂, 18. IX. 2005 (図 2)。

Brachymeria の以下の種は腹部第二背板後半に明瞭な微小点刻をもつ。

本種は後腿節の背面から外面の大部分が鮮黄色を呈し、野外でも他種から容易に区別できる。体長 4.0 ~ 6.7mm。本科の中では上郡町で最も普通にみられる種である。

晩秋から真冬の無風で晴れた暖かい日には神社の白壁などに飛来し静止する個体を見ることが出来る。2024 年 1 月 30 日の例では、午後 1 時頃から約 30 分の観察中に少なくとも 2 例の雌が飛来して日なたの白壁に静止し、手を近づけると飛んで移動した。観察時の気温は 13℃で、この時期としては特に暖かい日であった。成虫越冬し、冬でも暖かい日に飛翔し活動することは、オツネトンボ *Sympecma paedisca* などで観察されている行動と類似する。

¹⁾ Hideo OGAI 兵庫県上郡町

3. ハットリアシフトコバチ *Brachymeria hattoriae* (Habu, 1960)

上郡 鈴の宮公園; 1 ♀, 28. X. 2019, 1 ♀, 28. X. 2022 (図 3), 4 ♀, 19. XI. 2022. 金出地; 1 ♀, 26. V. 2022. 旭日; 1 ♀, 24. IV. 2021. 小野豆; 1 ♂, 7. VII. 2022. 与井新; 1 ♀, 26. V. 2022.

腹部第二背板基部に多数の大型点刻をもつ。Habu (1962) によれば体長 5.3-5.7mm とされるが、上郡では 5.4-8.2mm におよぶ大型の個体を得られている。各地で記録されているフィスケアシフトコバチ *Brachymeria fiskei* (Crawford, 1910) とまぎらわしいが、顔面に複眼ぞいの隆起条を欠き、中胸小楯板の点刻が均一で縦の無点刻領域がないことなどで明瞭に区別される。

とらえると擬死する性質が強い。またキアシフトコバチとともに、晩秋における活動が確認されたので、成虫越冬する可能性が強い。

4. コマユバチヤドリアシフトコバチ *Brachymeria secundaria* (Ruschka 1922)

上郡 鈴の宮公園; 1 ♀, 9. IV. 2022 (図 4)。

本種と次種は小楯板の後縁が均一に丸められる。Habu (1962) には兵庫県篠山の記録が反映されている。上郡産個体の体長 3.6mm。

5. チビアシフトコバチ *Brachymeria excarinata* Gahan, 1925)

上郡 鈴の宮公園; 1 ♀, 9.IV. 2022 (図 5)。

複眼後方の頬部に斜位の隆条をもたないことで特徴づけられる種群の一種。体長は 3.2mm。

ツヤアシフトコバチ亜科 *Haltichellinae*

日本産既知の 7 属 20 種のうち上郡町には 4 属 9 種が分布する。

6. アシアカツヤアシフトコバチ *Antrocephalus dividens* (Walker, 1860)

金出地; 1 ♂, 2. IX. 2023. 八保丙; 1 ♀, 8. VIII. 2023 (図 6)。

本種 ♀ は橙赤色の後腿節等が顕著であるが、♂ は全身黒色を呈し、別種の感がある。体長 5.4 ~ 6.0mm。 *Antrocephalus apicalis* (Walker, 1874) は本種のシノニムであり、そのタイプ標本の産地は Kobe, Hyogo とされる。

7. ツヤアシフトコバチ *Antrocephalus hakonensis* (Ashmead, 1904)

上郡 鈴の宮公園; 1 ♀, 22. V. 2022 (図 7), 1 ♀, 28. X. 2022. 高田台; 1 ♂, 23. VIII. 2003, 1 ♂, 22. IX. 2003, 1 ♀, 20. X. 2007, 1 ♂, 27. IX. 2008.

Habu (1960) は本種を *Tainania* 属に移したが、のちに *Antrocephalus* に包含された。

本種の顔面を複眼ぞいに走る蹄鉄型の隆起条の下方

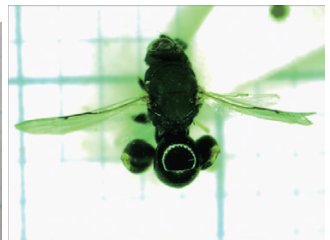
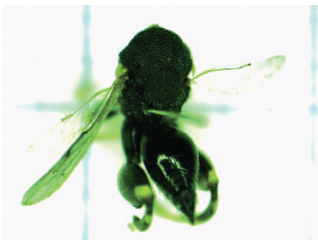


図 1: ハエヤドリアシフトコバチ ♀. 図 2: キアシフトコバチ ♀.

図 3: ハットリアシフトコバチ ♀.

図 4: コマユバチヤドリアシフトコバチ ♀.

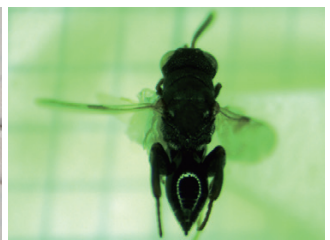
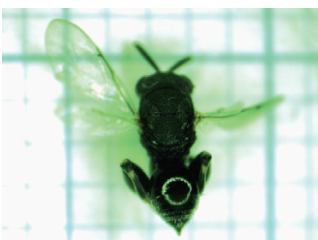


図 5: チビアシフトコバチ ♀.

図 6: アシアカツヤアシフトコバチ ♀. 図 7: ツヤアシフトコバチ ♀.

図 8: チビツヤアシフトコバチ ♀.

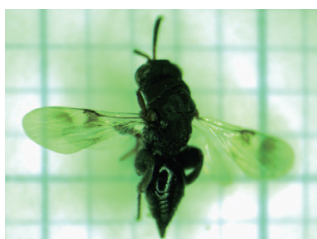


図 9: イシイツヤアシフトコバチ ♀.

図 10: ヒメツヤアシフトコバチ ♀.

図 11: ハネマダラアシフトコバチ ♀.

は触角窩下へのびることを特徴とする。全身漆黒色。体長 3.6 ~ 5.7mm とサイズの差が顕著である。

8. チビツヤアシフトコバチ *Antrocephalus japonicus* (Masi, 1936)

上郡 鈴の宮公園; 1 ♀, 18. IV. 2023 (図 8).

以下の 3 種はいずれも肢や触角に褐色味が強く外観が似るが、後腿節の形状などで区別される。本種の前翅は雌の縁紋下方をのぞき無斑。体長 3.2mm。

9. イシイツヤアシフトコバチ *Antrocephalus ishii* Habu, 1960

旭日; 1 ♀, 5. VI. 2023. 高田台; 1 ♀, 14. VIII. 2007 (図 9), 1 ♀, 4. V. 2008, 1 ♀, 20. VI. 2019.

本種は触角の全体が黒く、前翅は不明瞭な斑紋を有する。複眼は無毛とされる (Habu, 1962) が、次種のそれよりはるかに短い毛を散生しているようである。体長 4.4 ~ 6.2mm。

10. ヒメツヤアシフトコバチ *Antrocephalus murakamii* Habu, 1960

上郡 鈴の宮公園; 1 ♀, 9. IV. 2022, 1 ♀, 31. III. 2023. 与井; 1 ♀, 25. IX. 2022 (図 10), 2 ♀, 19. IX. 2023.

複眼には明瞭な毛を生じる。前翅に不明瞭な斑紋を有する。体長 3.8 ~ 4.7mm。

与井で得られた 3 ♀はいずれもナラ類の枯木に生じ

たヤケコゲダケの近傍で見られ、特に 2022 年の 1 ♀は子実体の上面に静止していた。ヤケコゲダケに寄生する鱗翅目幼虫を宿主とする可能性が考えられる。

11. ハネマダラアシフトコバチ *Hockeria bifasciata* Walker, 1834

高田台; 1 ♀, 5. V. 2003 (図 11).

本種の前翅には顕著な環状の暗色斑がある。体長 3.0mm。 *Hockeria nipponica* Habu, 1960 はシノニムである。

12. イシイアシフトコバチ *Hockeria ishii* (Habu, 1960)

上郡 鞍居川河川敷; 1 ♀, 7. XI. 2021 (図 12a).

ハネマダラアシフトコバチとよく似て、前翅にも類似の斑紋があるが、顔面に複眼に沿った隆起条がなく (図 12b), 腹部第一背板の基部に数本の縦隆条をもつ (図 12c) ことで区別される。これら特徴に基づき Habu (1960) は本種のために *Nipponohockeria* 属を新設したが、これは現在では *Hockeria* のシノニムとされている。体長 4.2mm。

長崎県の標本に基づき記載された種で、日本昆虫目録では九州の他に小笠原父島、屋久島、沖縄本島が産地として加えられている。また神奈川県昆虫誌には川崎、横浜市、三浦半島などにも産すると報告されている。本州では稀な種と思われるので、種の特徴を示す写真 (図 12b,c) を提示する。

13. ヒゲブトムネトゲアシフトコバチ *Haltichella clavicornia* (Ashmead, 1904)

金出地; 1 ♀, 28. IV. 2022 (図 13). 上郡 鈴の宮公園; 1 ♀, 29. III. 2022. 与井新; 1 ♀, 20. IV. 2023.

Haltichella は顔面に複眼ぞいの隆起条をもつが、左右の隆起条は前後単眼間で結合しない。本種は雌の触角が先方で顕著に肥大する。体長 3.2 ~ 3.7mm。

14. カジムラホソアシフトコバチ *Nipponochalcidia kajimurai* (Habu, 1960)

上郡 鈴の宮公園; 2 ♀, 18. X. 2023. 与井新; 1 ♀, 20. IV. 2023 (図 14).

ツヤアシフトコバチ亜科の別族で、前翅の脈相で区別されるが、腹部背板の第二節や腹部腹板の形状にも同

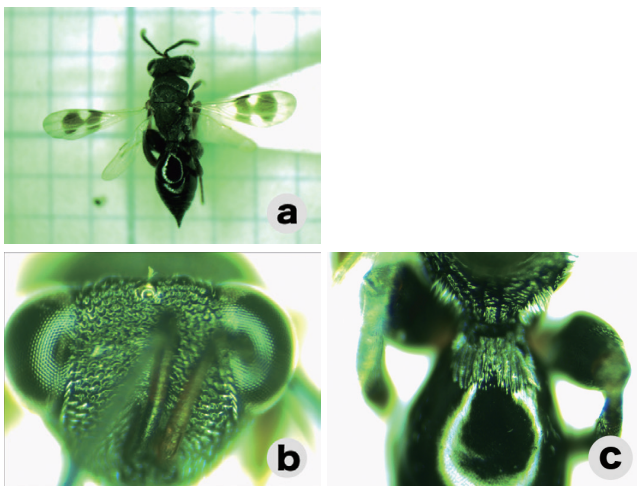


図 12: イシイアシフトコバチ ♀; a 全形, b 頭部 (前面), c 腹部第一背板。

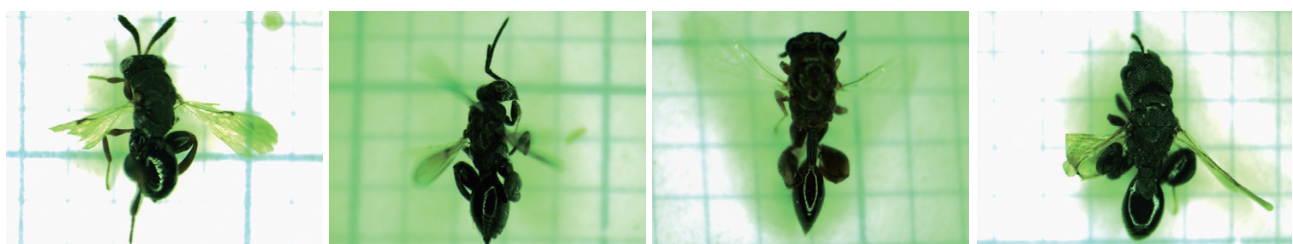


図 13: ヒゲブトムネトゲアシフトコバチ ♀. 図 14: カジムラホソアシフトコバチ ♀. 図 15: ハネジロアシフトコバチ ♀. 図 16: オニアシフトコバチ ♀.

亜科の他種との間に顕著な差異が認められる。本種の体長 3.3 ~ 4.2mm. はじめ *Euchalcidia* 属として記載されたが、のちに *Nipponochalcidia* Habu, 1976 に移された。

ハネジロアシフトコバチ亜科 Epitraninae

日本産既知の 1 属 3 種のうち上郡町には 1 種が分布する。

15. ハネジロアシフトコバチ *Epitranus albipennis* Walker, 1874

高田台; 1 ♀, 22. VIII. 2004, 1 ♀, 28. VIII. 2006 (図 15), 1 ♀, 2. V. 2010.

体長 3.1 ~ 4.0mm. タイプ標本の産地は Kobe, Hyogo とされる。

オニアシフトコバチ亜科 Dirhininae

日本産既知の 1 属 7 種のうち上郡町には 1 種が分布する。

16. オニアシフトコバチ *Dirhinus hesperidum* (Rossi, 1790)

高田台; 1 ♂, 28. V. 2006 (図 16).

体長 4.0mm. 頭部に前方へ向かう長大な一対の突起をもつ。原色日本昆虫大図鑑にも掲載されている奇怪な形状のハチである。

謝辞

希少引用文献の入手につき尽力いただいた榎原市昆虫館の池田大氏に感謝します。

引用文献

- Habu, A. 1960. A revision of the Chalcididae (Hymenoptera) of Japan, with descriptions of sixteen new species. Bull. Nat. Inst. Agr. Sci., ser. C, no. 11: 131-363.
- Habu, A. 1962. Fauna Japonica; Chalcididae, Leucospididae and Podagrionidae (Insecta: Hymenoptera). Biogeographical Society of Japan, Tokyo. 232pp, 19 plates.
- 神奈川昆虫談話会. 2017. 神奈川県昆虫誌, 第 3 巻. 1027-1029. 神奈川昆虫談話会, 小田原.
- 中村慎吾 編集. 2014. 広島県昆虫誌改訂増補版 第 4 巻. 2120-2122. 比婆科学教育振興会, 庄原.
- Narendran, T. C. 1989. Oriental Chalcididae (Hymenoptera:Chalcidoidea). Zoological Monograph. University of Calicut Publication, Calicut. 440pp.
- 日本昆虫目録編集委員会 編集. 2020. 日本昆虫目録第 9 巻: 膜翅目 (第 2 部 細腰亜目寄生蜂類). 140-148. 権歌書房, 東京.
- 大貝秀雄. 2018. 兵庫県赤穂郡上郡町の住宅団地内 1 区画における昆虫相. 播磨長翅目研究センター, 上郡. 94pp.
- 東京都本土部昆虫目録作成プロジェクト. 2016 年 8 月 29 日更新. 東京都本土部昆虫目録. <http://tkm.na.cococan.jp>. (参照 2024 年 2 月 5 日)

日本産アシプトコバチ科の亜科, 属への検索表[§]

1. 後脛節末端は裁断され 2 本の距を持つか, まがった刺状突起があり距を欠く. ツヤアシプトコバチ亜科. 2.
 — 後脛節末端には強靱な刺状突起があり, 1 本の距を持つ. 8.
2. 前翅の縁脈は翅の前縁に接し, 後縁脈と縁紋脈 (図 17) が発達する. 3.
 — 前翅の縁脈は翅の前縁からやや離れ, 後縁脈を欠く. 縁紋脈は痕跡的. 6.
3. 後脛節外面の少なくとも後半には縦隆線がある[#]. 4.
 — 後脛節・外面には縦隆線を欠く. 5.
4. 後脛節の腹面に顕著な突起を有する. 腹部第 1 背板基部に縦隆起線を欠く. *Neochalcis*
 — 後脛節の腹面に顕著な突起を欠く. 腹部第 1 背板基部に少なくとも一对の縦隆起線を有する. *Haltichella*
5. 顔面には, 前単眼の後方から複眼に沿い下方にのびる蹄鉄型の強い隆起線を有する. *Antrocephalus*
 — 顔面にはそのような隆起線はない. *Hockeria*
6. 腹部第 1 背板基部に横隆起線があり, この隆起線から発する 3 本の短い縦隆起線があり, その間がしわ状となる. *Nipponochalcidia*
 — 腹部第 1 背板基部に横隆起線はない. 7.
7. 頭部は横から見て著しく細長い. 小楯板後縁は 2 歯状に突出する. *Lasiochalcidia*
 — 頭部は横からみて特に細長くない. 小楯板後縁は丸められる. *Proconura*^{*}
8. 頭部に 2 本の角状突起を有する. 腹部基部は有柄. オニアシプトコバチ亜科. *Dirhinus*
 — 頭部に角状突起はない. 9.
9. 腹部には縦隆線群をもつ細長い柄部を有し, 腹部は下方にふくらむ. 触角付着点は複眼の下端よりはるか下方にある. 前翅に後縁脈を欠き, 縁紋脈は痕跡的. ハネジロアシプトコバチ亜科. *Epitranus*
 — 腹部に柄はあっても, 縦隆線群はない. 触角付着点は複眼の下端より上にある. 前翅の後縁脈と縁紋脈は発達する. アシプトコバチ亜科. 10.
10. 腹部は幅より長い柄を有する. 前伸腹節の気門は縦長. 11.
 — 腹部は無柄. 前伸腹節の気門は横長. *Brachymeria*
11. 中脛節末端に 1 本の距を持つ. 雌の腹部腹板末節は突出しない. 肢の爪は単純. *Conura*
 — 中脛節末端に距を欠く. 雌の腹部腹板末節は後方に突出する. 雄では肢の爪が二叉状. *Chalcis*

[§]: Narendran (1989) の検索表にない *Megalocolus* 属を除く.

[#]: ヒゲブトムネトゲアシプトコバチの後脛節は薇毛でおおわれて縦隆線は不明瞭.

^{*}: *Proconura* は国内では小笠原諸島のみから知られる.

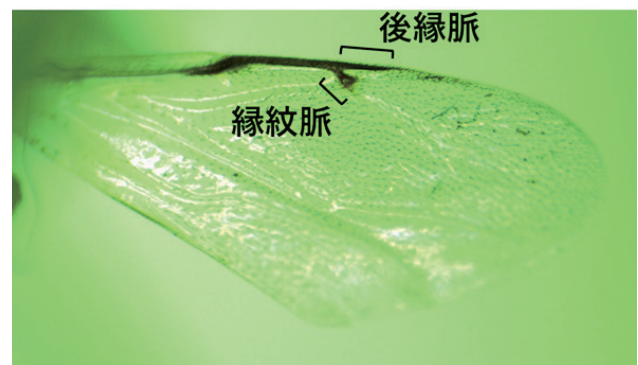


図 17: アシプトコバチ科の前翅の翅脈 (ハエヤドリアシプトコバチ)